2019.12.13 発行

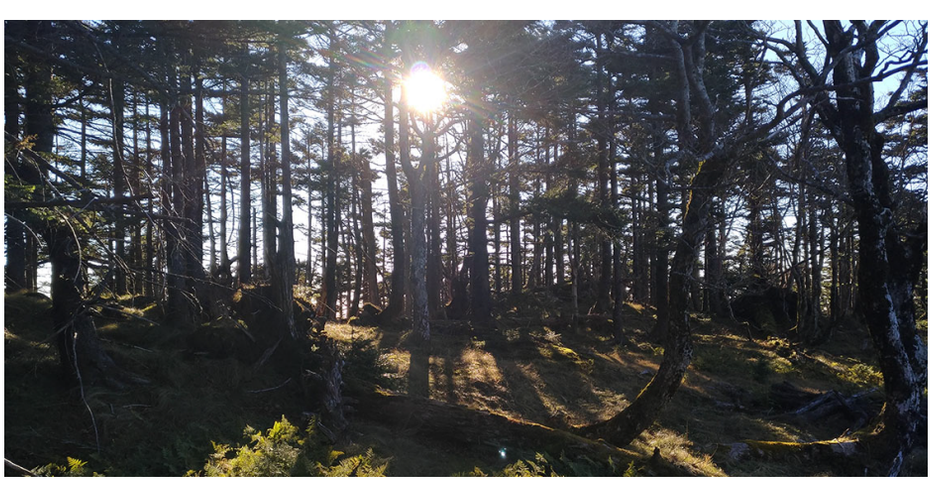
かみきた山歩記（さんぽき） -002

十郎山周回コース
（1269m）

以前から気になっていた十郎山へやっと行くことになった。十郎山は河合の役場からちょうど西の方角、大栂山の尾根（＊1）と白川又川を越えた先にある山である。大峯奥駈道の真ん中より少し北にある仏生嶽や孔雀岳に近く、稜線（＊2）をたどればそれらの山域に入っていける。地形図を見れば、緩やかな稜線が伸びており、おそらく広い森が広がっていそうな地形。きっと、気持ち良いルートがたくさんありそうなのに、登山地図には一切登山ルートが載っていないのが不思議だ。

今回は、せっかくなのでゆっくり回ろうと、十郎山を経由して奥駈道に入り、楊子ノ宿で一泊。帰りは小峠山を経由する周回コースで設定。

早朝、下山口の水尻バス停に車をデポ（＊3）。そこから国道169号線を少し歩き林道白川又線へ入る。横を流れる白川又川の透明なブルーにしばし見とれながら、プラプラと歩いていると車止めのゲートが現れる。もし、ピストン（＊4）するならここまでは車で来られるが、落石などが結構あるので走行は要注意。ゲートを越えて少し進むと、十郎山の手前まで伸びているモノレールの発着場がある。このモノレールは、十郎山までの明瞭な尾根沿いに設置されており、十郎山のピーク手前まで伸びているのでそれを伝って歩く。ルートファインディング（＊5）せず十郎山手前まで上がれるが、かなりの急登を直登することになるのでどっちがいいんだか…。レールが途切れたら、あとは尾根に忠実に上がっていくとすぐに十郎山ピーク到着。紅葉が始まった木々がにぎやかだ。ここから先は、アップダウンの比較的少ない自然林の森歩きが始まる。尾根が広いので、ルートを見失わないようにコンパスを合わせながら歩くが、上りで歩くならそう心配はない。ひたすらに高いところを目指していけばいいからである。



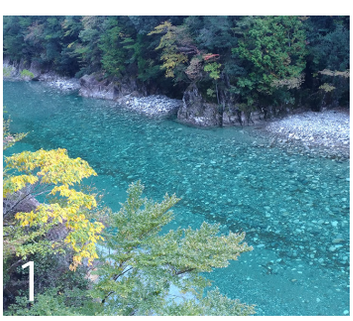
仏生ヶ岳山頂付近。 東側展望がすこし開けている。 雲海の向こうにキラキラ光っているのは熊野灘か

十郎山のピークから1時間ほど歩くと、小峠山へつながる稜線のP1477地点に合流。この辺りから、前方にちょくちょく奥駈道稜線が見えてくる。広かった尾根も、段々と狭くなっていき、奥駈道合流手前になると岩が露出した細尾根もたまに出てくる。ブナやカエデからシラビソの森に変わり、苔むした倒木が目立ってくると、いよいよ奥駈道稜線は近い。

スタートから5時間半、孔雀岳の少し北側で奥駈道稜線と合流。本日のお宿楊子ノ宿はここから北に向かうのだが、ひとまず孔雀岳まで足を延ばす。西側の展望が開けたところで折り重なる山々の広がりにうっとりと見とれる。山裾西側に流れる字無ノ川に向かって緩やかで気持ちよさそうな尾根が伸びている。一度歩きに行ってみたいな…。

孔雀岳では大台ヶ原や高野山方面が一望。天気よく空気も澄んでいるので、ずーっと見ていたいけど、いつまでもここにいるわけにもいかない。孔雀岳のピークから1時間ほどで楊子ノ宿到着。ひとまずここに荷物をデポして、周辺を少しお散歩。奥駈道を北に進み、奈良の涸沢（からさわ）（私が勝手に命名しただけ。アルプスの涸沢のようにカール（＊6）状に広がる山肌が美しいところ）カラハッソウ谷を上から眺められるところまで歩く。カラハッソウの紅葉は残念ながら終わっていたが、いい時期ならこの付近にテントを張って紅葉を愛でるのもいいかもしれない。

孔雀岳から小峠山へ向かう途中に見えた五百羅漢（写真真ん中少し右）奥は熊野方面。 見える範囲はすべて山！とういダイナミックな展望



1：独特なブルーの白川又川。 透明度抜群！夏はぜひとも川遊びしたい

2：木漏れ日を受けて気持ちよさそうな苔。 フワフワした小動物のよう

3：一晩お世話になった楊枝ノ宿掃除道具も置いてあるので
使った後は、 きれいにして帰ろう！

4：空の青とのコントラストが最高♪

5：美味しそうに見えるが…食べれるのかな？

6：夕飯の納豆パスタ with ミートボール

1：十郎山周辺。 紅葉の時期ももちろんいいが、 新緑の頃も気持ちよさそう☆テント場にちょうどいい空間がたくさんある 2：孔雀岳山頂より大台ヶ原方面を望む

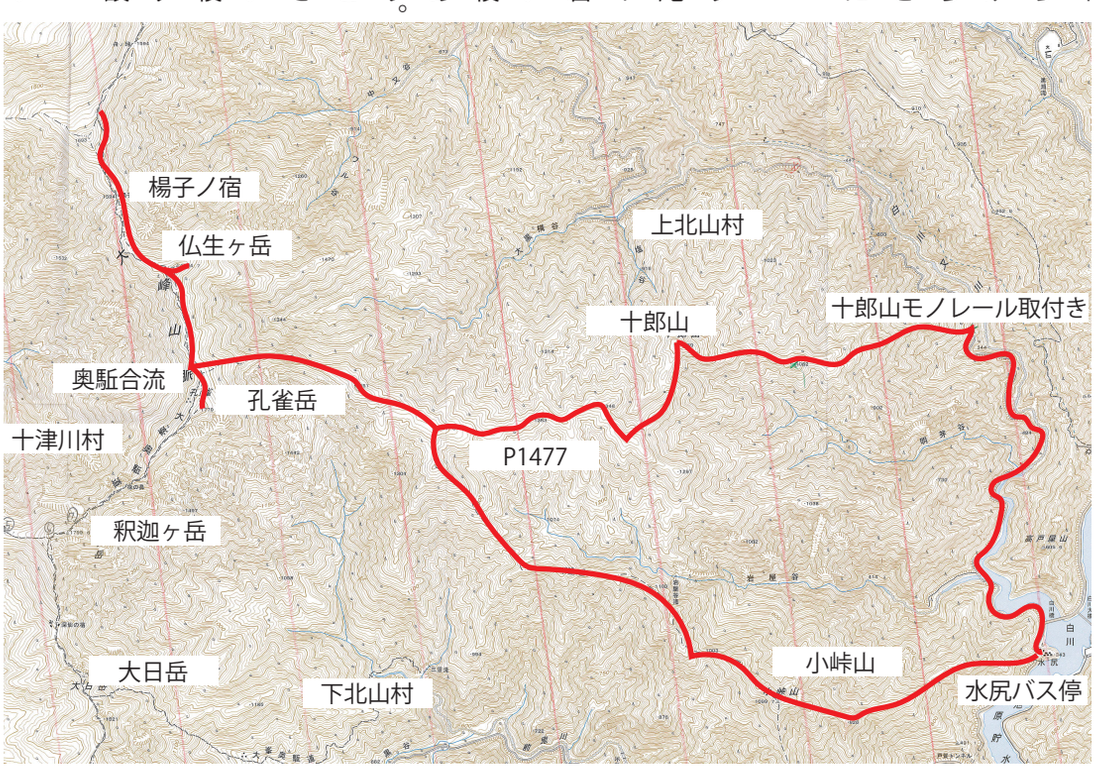
3：夜明け３０分ほど前の空は、 なんとも言えない透明なブルー。 山中で一泊すると、 このような特別な瞬間を味わうことができる 4：小峠山付近より、 北山川を望む

楊子ノ宿に戻り、小屋内にテントを張り寝床確保。平日なので誰もおらず、小屋は独り占めである。後は、のんびりお茶したり本を読んだり。泊りの山行中で、一番楽しみな時間かもしれない（笑）。暗くなる前に夕飯も済ませてしまい、後は寝るだけ。

翌日は夜明け前に起床。餅入りスパイシーヌードルで朝ご飯を済ませ、ぼちぼちとテントやらを片付ける。ヘッドライトがいらないくらいに明るくなったころ出発。昨日は寄らずに、横を通っただけの仏生ヶ岳のピークへ足を延ばし、柔らかい朝の光が木々からこぼれ落ちるのを楽しむ。孔雀岳北側から上北山村方面に緩やかにのびる尾根でP1477まで行き、そこから小峠山まで続く稜線をたどる。地図で見ていると明瞭でわかりやすそうな尾根だったが、実際歩いてみると支尾根（＊7）がたくさんあり、意外とルートファインディングが難しい。途中、岩屋谷滝付近では、滝の豪快な音がしていたが、姿を見ることはできなかった。稜線から少し下りたら見られるところがあるかもしれないので、今度探してみよう。

自然林が多く非常に気持ちの良いところであった。健脚で読図がしっかりできる方であれば、楽しめるコースではないかと思う。また、今回のように奥駈道稜線まで行かず、十郎山～小峠山で周回すれば、日帰りの山歩きコースとしても設定できそうだ。

＊用語説明は次のページをご覧ください



コースタイム

（1 日目）

８時間（16.8 キロ）

①水尻バス停 7:24 ～②十郎山モノレール取付き 8:15 ～③十郎山 10:22 ～④奥駈合流 13:07 ～⑤孔雀岳 13:30 ～⑥楊枝ノ宿 14:30

（2 日目）

5 時間 50 分（11.4 キロ）

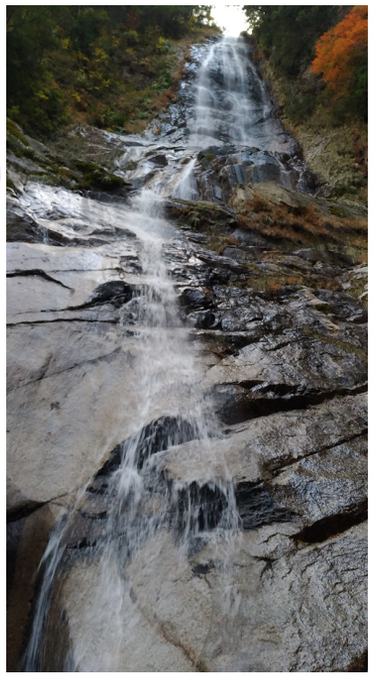
⑦楊枝ノ宿 6:37 ～⑧仏生嶽 7:28 ～⑨奥駈合流 7:56 ～⑩小峠山 11:30 ～⑪水尻バス停 12:25

又剱山から竜口尾根を振り返る
雪がうっすら積もり
冬のはじまりを感じる一日
（2017.11.20）

松阪にある松浦武四郎記念館へ行った帰り、通行止め解除となった国道 425 号線を通りカクレ滝を見学
思った以上の迫力に圧倒！
（2017.11.24）

小椽山山頂付近より
大栂山や十郎山の稜線の奥には、大峰の稜線が見える
（2017.12.05）

国道４２５号線沿いの古川に巨岩発見！この付近にはほかにも大きなのが転がってたから、探せばもっとあるかも…
（2017.11.24）



今月のひとこま

ヒメシャラとブナが絡み合ってる。大平瀬から笙ノ峰へ向かう途中　（2017.11.20）

サンギリ峠から集落へ下りる道の途中、河合の集落を上から眺める　（2017.11.20）

☆登山用語注釈☆

＊１）尾根：谷と谷に挟まれた山地の一番高い部分の連なりのこと。
＊２）稜線：山頂から山頂をつなぐ道。
＊３）デポ：荷物の一部を登路の途中に置いておくこと。また、その地点。
＊４）ピストン：同じ道を行って帰ること。
＊５）ルートファインディング：自分の知識や感覚、地図やコンパスなどの情報を元に正しいコースを見つける技術
＊６）カール：谷の斜面にできた、安楽いすのような形のくぼみで、急ながけと平らな底（＝カール底）とで成る地形。圏谷 (けんこく)。
＊７）支尾根：主となる尾根（稜線）を主尾根といい、そこから枝分かれのように派生した副稜線のこと。

【編集後記】
大台探検の松浦武四郎氏の軌跡が気になる今日この頃。文献に出てくる古い地名に悪戦苦闘しています。
今はなくなってしまった昔の地名などご存知の方は、ぜひご一報ください！

行政便り　上北山村通信「山へ散歩いこう」
発　　行　地域おこし協力隊　小谷雅美
発　　刊　偶数月第二水曜日
連 絡 先　090-2064-4971

＊小谷協力隊員の山行記録は、ブログでも読めます。「山へ散歩いこう」で検索してみてください☆